消 防 学 校 だ よ り

令和２年10･11･12月号

発行年月日　令和２年12月18日
発　　行　宮崎県消防学校

第26期救急科入校

10月20日(火)第26期救急科に30名が入校しました。

12月15日(火)までの約２ヶ月、救急業務及び救急医学基礎、応急処置総論、病態別応急処置、特殊病態別応急処置など、救急隊員に必要となる基礎的な知識及び技術を習得します。

（新型コロナウイルス感染症対策として全員マスクを着装しての集合写真となりました）

総代　松本　幸一郎（日向市）

観察と判断

11月6日(金)、11月12日(木)の２回に分けて、宮崎市郡医師会病院の　廣兼　医師より観察と判断の講義を受けました。救急事案発生後、現場にいち早く到着し患者に接するのが救急隊員となります。医療機関へ的確な情報を送るためにも、患者の観察と状態の判断が確実にできるよう授業に取り組みました。

産婦人科・周産期障害

11 月 13 日(金)、宮崎大学医学部　富　森　医師より、産婦人科・周産期障害の講義を受けました。産科・婦人科系等の救急患者に対し適切な応急処置が行えるよう手技を学びました。

シミュレーション（特定行為補助要領）

11 月 20 日(金)、現役の救急救命士に講師（西諸広域消防本部　柚木山　学　司令補・東児湯消防本部　山口　真悟　司令補）として来ていただき、特定行為の補助要領をおこないました。現場で業務を行っている先輩に講義していただくことで緊張感のある訓練が行えました。

止血帯取り扱い

11 月 27 日(金)、止血帯(ターニケット)の取り扱いを、宮崎大学医学部教授　落合　医師に指導していただきました。

なぜここで教授自ら止血法か？と思われるかもしれませんが、我が国でも大規模国際イベントなどを控え、テロ災害等により多数の傷病者が発生する事態が想定され、救命の観点から多数の傷病者に対してターニケットを用いた速やかな止血処置が、救急隊員のみならず、現場で警戒に当たる消防隊員等により行われることが期待されています。爆発等が原因の四肢切断などで生じる大量出血にはターニケットを用いた止血が効果的だそうです。

効果測定（実技）

12 月 7 日(月)、救急科課程で行ってきた手技についての訓練効果を測定するため、評価者に宮崎市消防局　柗元　学　司令補・西臼杵広域消防本部　佐藤　敏隆　消防士長に来ていただき効果測定(実技)を実施しました。

想定は、家庭内で起こった急病事案で、患者接触から、観察、心肺蘇生法の一連の動作を評価していただきました。

シミュレーション（想定訓練）

12 月 9 日(水)、想定訓練を行いました。想定は脳血管障害疑いからの容態変化や、呼吸器疾患、外傷（骨盤骨折等）を実施しました。

訓練指導に、日向市消防本部　平岡　純也　司令補・西都市消防本部　今井　大輔　司令補　串間市消防本部　武田　悠佑　司令補に来ていただき実施しました。

各想定終了時には、ブース担当救命士より的確なアドバイスをもらうことができ、大変、充実した訓練になりました。

第 26 期救急科修了

12 月 15 日（火)、約 2 ヶ月の研修を終え、30 名全員が揃って教育課程を修了することができました。

今後、様々な事象に遭遇すると思いますが、救助者が要救助者とならないよう、自らの安全対策を確実に行い、消防目的を達成してください。

消防学校の感染対策

消防学校では、新型コロナウイルス感染症による感染リスクを下げるため、下記の対策をしています。

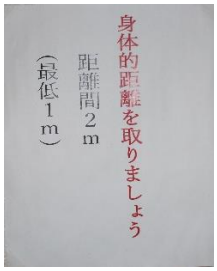
しかし、物的な対策のみでは限界があります。入校する学生各々が感染対策を忘れず継続してもらうことが大切です。

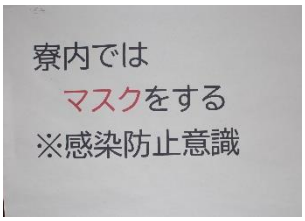
現在、学校生活においては何かと不自由をおかけしておりますが、今後とも感染拡大防止のため御協力をお願いします。

本館受付　アクリル板設置

食堂　6 人掛けを 3 人で使用しアクリル板を設置

掲示物による注意喚起





今年もお世話になりました。

新型コロナウイルス感染症や鳥インフルエンザの発生など、今年は様々な事がありましが、来年が良い年となることを願い静かに年末年始を過ごしましょう。

災害にも自粛要請したいものです。

1月の主な行事

・中級幹部科　1月14日(木)～1月22日(金)
・消防団指揮幹部科(分団指揮課程)　1月26日(火)・1月27日(水)

宮崎県消防学校
担　当:伊豆元　優一(いずもと　ゆういち)
電　話:0985-56-0555　FAX:0985-56-1475
E-mail:shobou-s@pref.miyazaki.lg.jp